日刊 動労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

1989.7.3 No. 3051

『リクルート』・『消費税』・『女性スキャンダル』……

末期症状の自民党に断を！

船橋市長選を闘って

消費税・リクルート、さらには宇野の「女性スキャンダル」をはじめ、腐りきった自民党政治への怒りが爆発するなかで、船橋ー千葉の市長選が闘われた。

私も船橋の松本候補の選対に派遣され、ひと月余りを闘い抜いた。

わたしの主な任務は宣伝行動であったが、そのなかで反自民の怒りをビンビン肌で感じた選挙戦であった。

車での放送宣伝、駅頭での宣伝を選対の方々と共に行うと、市民から「オレは絶対投票する」「ガンバッテ」と声をかけられた。また、特筆すべきことは、六・一五土井たか子委員長の来船であった。

津田沼駅前に据えつけられた宣伝カーのまわりは人だかりとなり、歩道橋には五重六重の人の輪が出来、まさしく津田沼駅頭宣伝始まって以来の街頭演説会が実現したのだ。

他候補も組織の総力動員で演説会を行ったが足元にも及ばなかった。

しかし結果は、社会党の基礎票を大きくのばし善戦したものの自民党現職市長の必死のまきかえし（もちろん金権も含むと思われる公然たる選挙違反が行われた）のなかで非常に残念なものに終わった。

この結果を見てはっきり言えることは「連合」問題がこの選挙に大きく影響を及ぼしたことは間違いない事である。

旧同盟系の組合がこぞって自民党支持にまわったことは勿論のこと、総評傘下の労組の腰は重くなり、この選挙を先頭で担うべき現場の労働者には、まともな討議も行われず「連合」がおしつけられ、運動としての活力は失われてしまっているということである。

今後も「連合」問題は社会党の手かせ足かせになることは明らかだ。

また、この選挙で学んだことは、企業の利害を優先し、自民党にからめとられている人々の存在、地縁・血縁を利用され自民党に完全にだまされている住民（船橋では現職市長の出身県人会の婦人たちがだまされて動員されていた）の存在がまだまだ多いことと、宣伝中、数箇所ででくわした日本共産党の「天安門」を思い起こさせる官僚的で横暴な態度であった。最後に、この紙面をおかりしまして、選対事務所、後援会事務所で共に仕事をしたみなさんに御礼を申し上げます。大変御苦労様でした。

また、選挙にかけつけてくれた組合員のみなさん御苦労様でした。

これからも秋の一大闘争を切り拓くために、当面、物販闘争、七・九地びき網の成功と動労総連合推薦の都議候補長谷川ひでのり氏、参院千葉地方区いとひさ八重子氏、比例代表重点候補清水澄子氏の必勝にむけ頑張りましょう！

執行委員　山田雄一

夏季物販 一人300円達成を

解説 急増する過労死

―団結と闘いなくしては、生命も安全も守れない。―

過労死という新しい言葉がひんぱんに使われている今日である。

六月十六日開かれた「過労死労災申請者を励ます会」の中で過労死とは、「：過労によって人間の体の正常なリズムが崩壊し生命機能に破綻をきたした状態のこと」と定義付けられている。ところで、「過労死一一〇番」という電話相談が昨年六月に設置され一年がたつが、寄せられた相談は千件を超すといわれており、その深刻さがうかがえる。病名の多くは、くも膜下出血、急性心不全、脳出血、心筋梗塞等であり、四〇～五〇代が圧倒的に多いといわれている。

家族が訴えている発病の誘因としては長時間労働、残業・早出過多、休日出勤、人員不足による過重な責任負担、等々と発表されている。中でも特に注目すべきことは、『：多くの場合が労働組合の協力はなく、会社側も過労死と認めず資料も出さず会社から「労災は下りないことになっている」とデタラメな説明がされ、泣き寝入りする人もかなり存在している』という指摘である。

日本資本主義（帝国主義）の悪どい強搾取、強労働、人権・人命さえ踏みにじる労働者支配のあり方に新ためて心底からの怒りをおぼえる。特に、その「先端」をゆくＪＲ当局と鉄道労連革マルを許すことはできない。団結と闘いなくして生命も安全も守れないことを肝に銘じて、動労千葉の組織的強化をたたかいとらなければならない。「労組交流センター」は、労災や過労死等で悩み、怒っている無数の人々の結集の場、闘いの場としてもその意義は絶大であろう。

われわれは、その先頭で頑張ろうではないか。